

新型コロナウイルスによる生乳需給への影響を鑑み、直近の飲用等向けの販売状況の推移を中心に毎週発信してまいります。

発行：一般社団法人Jミルク生産流通グループ

《都府県の生産回復に期待～下期の生乳需給について～》

・9/21週の牛乳の家庭内消費については、前週(9/14週)より販売個数は増加しているものの、伸び率が縮小しており、牛乳類全体では今年初めて前年を下回る結果となった。全国的に気温が落ち着いてきたことや、連休が重なる日程であったことに加え、台風12号の影響で北海道生乳の輸送がストップしたこと等による出荷制限も要因のひとつとして考えられる。

・なお、都府県の生乳生産は回復基調にあることから、生乳需給のひっ迫度合は弱まっていくものと考えられるが、引き続き天候や市場の動向を注視してゆく必要がある。

※9月25日公表「2020年度生乳及び牛乳乳製品の需給見通しと課題について」

<https://www.j-milk.jp/gyokai/jukyu/h4ogb4000004lqi.html>

【牛乳類の販売速報(推定値):インテージSRI】

(1)直近(本年7月～)の動向(表①参照)

・直近(9/21週)の販売個数(前年同期比)は、牛乳:同101.1%、成分調整牛乳:同91.3%、加工乳:同88.9%、乳飲料:同97.7%。

牛乳類トータルでは同99.4%と前年を若干下回った。

・販売単価は、牛乳:192.2円、成分調整牛乳:174.9円、加工乳:184.3円、乳飲料:150.5円。

(2)牛乳は前週(9/14週)より伸び率が縮小し、乳飲料は前年割れとなった。

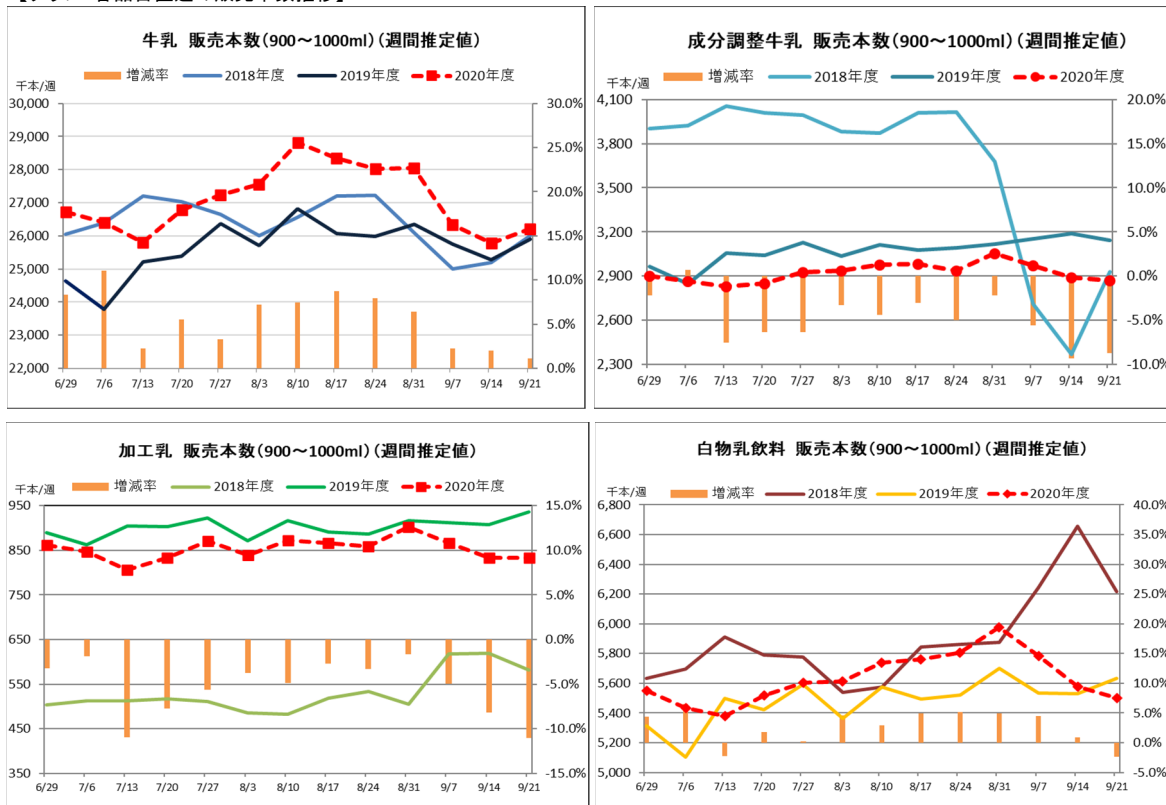
※出典 (株)インテージSRI週データ。販売本数、販売単価(税抜)については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

【表① 直近の牛乳類の販売動向】 ※量販店・コンビニ等、小売店の販売実績

(千個)

品目	区分	7.6-	7.13-	7.20-	7.27-	8.3-	8.10-	8.17-	8.24-	8.31-	9.7-	9.14-	9.21-
		販売個数	35,549	34,806	35,992	36,629	36,953	38,409	37,954	37,634	37,975	35,955	35,084
トータル	販売個数前年比	109.1	100.3	103.5	101.7	105.6	105.4	106.8	106.1	105.2	101.7	100.5	99.4
	販売単価	183.0	183.0	183.2	183.1	183.4	183.8	183.4	183.2	183.7	183.8	183.9	183.5
牛乳	販売個数	26,401	25,794	26,794	27,225	27,566	28,821	28,343	28,033	28,043	26,330	25,782	26,204
	販売個数前年比	111.0	102.2	105.5	103.3	107.2	107.5	108.7	107.9	106.4	102.3	102.0	101.1
成分調整牛乳	販売個数	2,867	2,828	2,848	2,929	2,935	2,976	2,982	2,939	3,052	2,974	2,891	2,868
	販売個数前年比	100.7	92.4	93.6	93.6	96.7	95.6	97.0	95.0	97.8	94.4	90.7	91.3
加工乳	販売個数	846	806	833	871	839	872	867	858	902	867	833	833
	販売個数前年比	98.1	89.1	92.3	94.4	96.2	95.1	97.3	96.8	98.4	95.1	91.8	88.9
乳飲料	販売個数	5,435	5,379	5,518	5,604	5,612	5,740	5,763	5,804	5,978	5,784	5,578	5,499
	販売個数前年比	106.5	97.8	101.8	100.2	104.6	103.0	104.9	105.2	104.9	104.5	100.9	97.7
	販売単価	150.7	150.7	150.8	150.5	150.6	151.0	150.1	150.1	150.6	150.6	150.5	150.6

【グラフ 各品目直近の販売本数推移】



【ヨーグルト類の販売速報(推定値):(一社)Jミルク調べ】






(1)直近(本年7月～)の動向(表②参照)

直近(9/21週)の販売個数は、ドリンクタイプ(90～250ml):前年同期比90%未満、個食タイプ(70～130ml):同90%以上、大容量タイプ(350～500ml):同100%以上。

(2)ヨーグルトについても、前週と比較して、ドリンクタイプ、個食タイプはさらに減少幅が大きくなり、また大容量タイプについても前年を僅かに上回る程度となった。こうした状況は、牛乳類と同様に、気温の低下や連休の影響があるものと思われる。

【表② 直近のヨーグルト類の販売動向】 ※量販店・コンビニ等、小売店の販売実績

品目	7.6-	7.13-	7.20-	7.27-	8.3-	8.10-	8.17-	8.24-	8.31-	9.7-	9.14-	9.21-
ドリンクタイプ	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
個食タイプ	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
大容量タイプ	↑	⇒	⇒	⇒	↑	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒

 : 前年比90%未満	 : 前年比105%以上110%未満
 : 前年比90%以上100%未満	 : 前年比110%以上120%未満
 : 前年比100%以上105%未満	 : 前年比120%以上

※なお、下地の色が濃いほうが、上記範囲内で前年との増減差が大きいかを表す。

※本データの収集・分析は、2020年度生乳需要基盤確保事業を活用し実施しております。